



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～流行している感染症について～

4月に入ってから一部の地域を除いて季節性インフルエンザが大分減ってきました。東京都感染症情報センターのデータでも同様にインフルエンザが減少しています。一方、RSウイルスや溶連菌、アデノウイルスによる咽頭結膜熱や、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎、手足口病・ヘルパンギーナなどが増加傾向です。気温が上がるにつれて夏の感染症も増えて来ています。

～新型コロナウイルスについて～

厚労省は新型コロナウイルスの5月8日の感染症法の分類を5類へ移行することを4月27日に正式決定しました。5月8日以降は、季節性インフルエンザと同等の扱いとなり、発症翌日以降5日間かつ症状改善後1日は外出を控え、自宅療養とする方針です。

今後学校ではマスクの着用は求められず、給食の時も「黙食」は必要なくなりましたが、引き続き健康状態の把握、適切な換気の確保、手洗いなどの手指衛生や咳エチケットを行いましょう。また、水際対策は4月29日の0時から緩和されました。海外から入国する際も、ワクチン接種証明書や出国前検査証明書の提示が不要になりました。

また、5月5日WHO(世界保健機関)は3年3か月ぶりに「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に当てはまらなくなったと発表しました。死者は公式発表では少なくとも世界で700万人とされています。日本国内の3年3カ月の総死者数は約7万5千人でした。一方、過去を振り返って第1次世界大戦中に起こったスペイン風邪と比較してみますと、内務省衛生局の発表で1918年8月から1920年7月までに流行したスペイン風邪の日本国内の総死者数は38万5029人でした。当時の人口が約5千5百万人でしたから、スペイン風邪はいかに被害が大きかったかがわかります。

～新型コロナワクチンについて～

WHO(世界保健機関)は3月28日、新型コロナワクチン接種は60歳未満の健康な成人に対する定期接種を推奨しないと発表しました。また、17歳以下に対しては最も優先順位が低いとしています。重症者や重大な並存疾患のある方には推奨する一方、並存疾患のない健康な成人に対しては定期的な接種は推奨せず、健康な小児への初回及び追加接種については各国で判断すべきとしています。なお、日本国内では特例接種が令和5年度中は継続されますが、世界では接種はほぼ終了となり、日本だけ6回目の接種が開始されます。

～新型コロナワクチンの副反応について～

令和5年4月28日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2058名(このうち19歳以下は9名)でした。このうち、4回以上接種が251名でした。また、接種後の心筋炎・心筋炎疑い事例は520名で、このうち11歳以下は9名でした。接種後に体調不良を生じた場合には、予防接種健康被害救済制度という制度があります。令和5年4月20日までに受理された健康被害救済制度の件数は7288件にのぼっており、このうち認定されたのは2398件です。

表：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	106
2	インフルエンザA型	43
3	溶連菌	13
4	突発性発疹	3
5	咽頭アデノウイルス	2
5	RSウイルス	2
5	水ぼうそう(水痘)	2
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	1

※新型コロナウイルス流行中は、感染症検査は防護服着用し必要最低限行っています

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

あんず通信バックパ-は
クリニック-HP-からご覧になれ
ます。<https://ssn-clinic.net/>

文責：清水マリ子

